

2．目指すべき将来像

2 - 1．まちの魅力と特性

(1) まちの成り立ち

江戸期、2代将軍・徳川秀忠以来、神田山のふもとにあった禅寺・高林寺の湧き水が将軍家御用の茶の水をされたことから、お茶の水高林寺と呼ばれ、その一帯も「お茶の水」と呼ばれるようになった。

かつては、山の手台地のひとつ、本郷台地の一部で、神田山（神田台）と呼ばれた高台であったが、1616年の神田台堀割工事（神田川水路工事）によって本郷台地と分断された。同年徳川家康の死後、駿府詰の旗本の多くが駿河国から江戸に戻り、この一帯が宅地に割り当てられて住むようになったため、「駿河台」と呼ばれるようになった。

その後、湯島聖堂が上野から移されて依頼、学問、文化の要所となり、幕末から明治維新にかけて、数多くの文化人がこの周辺の居住地を構えた。現在も、学校、宗教建築においても当時をしのぶ意匠・形態を保ち続けている。

(2) まちの魅力と特性

本地域は、明治大学、日本大学、文化学院をはじめ、多くの大学・各種専門学校等が立地し、多様な人材を輩出する地域である。江戸期以来の学問のまちとして、地形を活かした坂の風情とともに、歴史・文化を伝える資源も数多く残されている。

日本のビジネス拠点である大手町・丸の内・有楽町地域、IT関連機能の集積が進む秋葉原地域、日本有数の古書店街である神保町地域、スポーツ店が集まる小川町地域など、徒歩圏内に多様な魅力が集積するエリアであり、JR御茶ノ水駅を中心として、商店街が形成されている。

神田川沿いには、歴史的な資源を保全・活用するため、風致地区・都市計画緑地が指定されており、緑豊かな河川空間が広がっており、本郷通りの聖橋は、地域を象徴する景観資源にもなっている。

また、この神田川を挟んで本地域と対岸には、多くの医療機関が立地している。

(3) 開発動向

本地域では、明治大学と日本大学がまちの中心にあり、将来的に両大学共キャンパスの整備が、検討されている。

また、周辺では、淡路町再開発事業なども進みつつあり、日立本社が売却された。

【神田駿河台地域】まちの魅力、特性

●大学等・教育機関の集積

◇日本大学・お茶の水通り



◇明治大学・明大通り



◇専門学校等



●医療機関の集積

◇杏雲堂病院



◇駿河台日本大学病院



◇三楽病院



◇東京医科歯科大学
附属病院



●文教のまちとしての蓄積

◇歴史・文化を伝える資源

<ニコライ堂>



<太田姫稲荷神社>



<カザルスホール>



<文化学院>



<山の上ホテル>



◇御茶ノ水駅を中心とした賑わい

<茗溪通り>



<楽器店の集積>



◇ゆとりある緑豊かな街路

<とちの木通り>



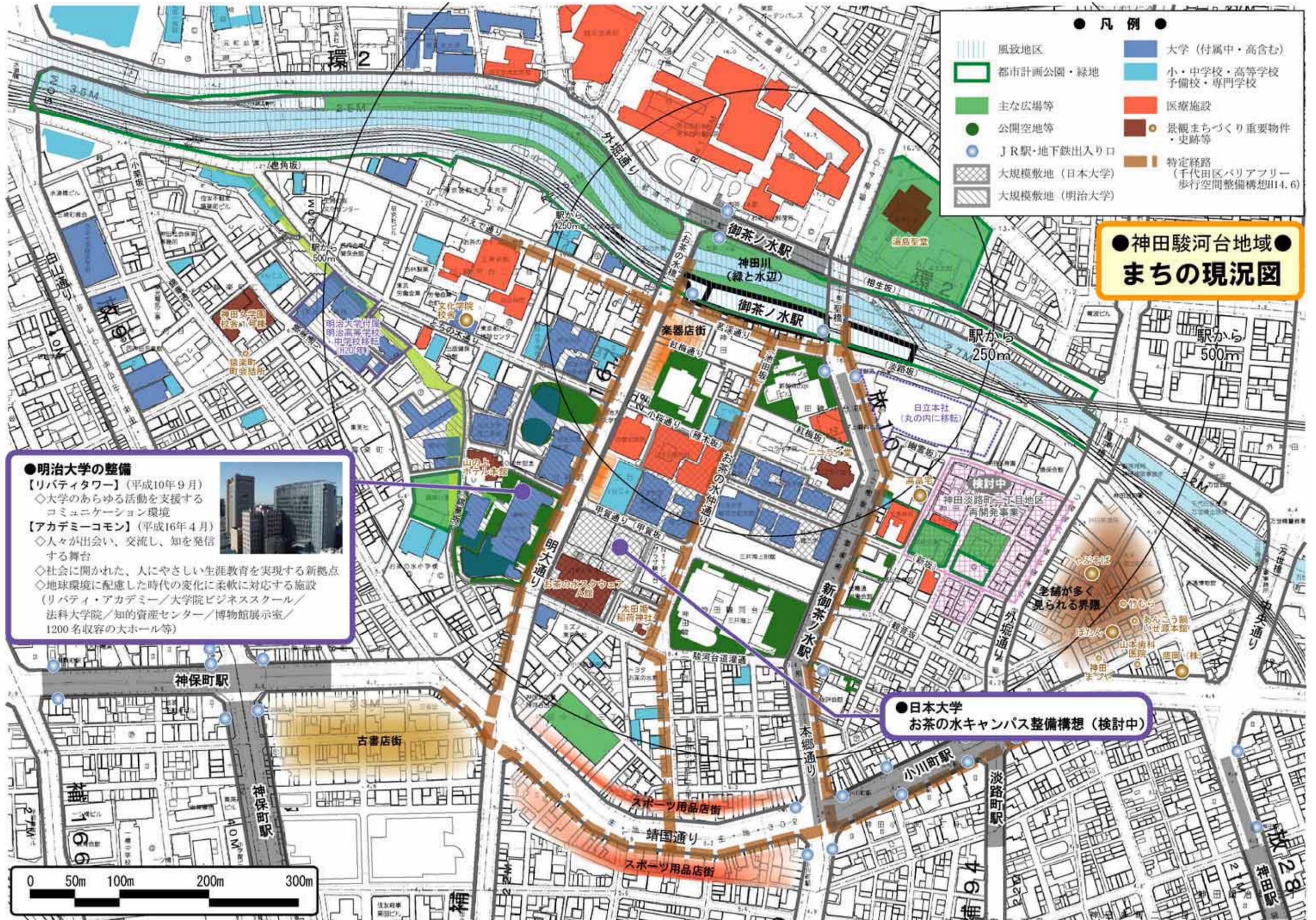
●神田川とその眺望の広がり



●魅力と個性ある周辺のまち

- ◇書店街（神保町）
- ◇スポーツ用品店街（神田小川町）
- ◇老舗の多い界隈（神田淡路町）
- ◇1T拠点・電気街（秋葉原）
- ◇大手町・丸の内（国際的なビジネスセンター）





● 凡例 ●

	風致地区		大学 (附属中・高含む)
	都市計画公園・緑地		小・中学校・高等学校 予備校・専門学校
	主な広場等		医療施設
	公開空地等		景観まちづくり重要物件 ・史跡等
	JR駅・地下鉄出入口		特定経路 (千代田区バリアフリー 歩行空間整備構想H14.6)
	大規模敷地 (日本大学)		
	大規模敷地 (明治大学)		

● 神田駿河台地域 ●
まちの現況図

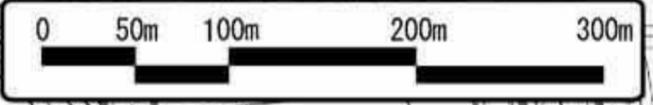
● 明治大学の整備

【リビティタワー】(平成10年9月)
◇大学のあらゆる活動を支援する
コミュニケーション環境

【アカデミーコモン】(平成16年4月)
◇人々が出会い、交流し、知を発信
する舞台
◇社会に関われた、人にやさしい生涯教育を実現する新拠点
◇地球環境に配慮した時代の変化に柔軟に対応する施設
(リビティ・アカデミー/大学院ビジネススクール/
法科大学院/知的資産センター/博物館展示室/
1200名収容の大ホール等)



● 日本大学
お茶の水キャンパス整備構想 (検討中)



2 - 2 . 地域を取り巻く主な社会状況

まちづくりを進めていくうえで、近年、社会的な動向が大きく変化しており、多様な視点から前提となる認識を捉えておくことが求められている。

なかでも、地球環境への配慮、防災性の向上、ユニバーサルデザインなど、都市としての基本的な性能を確保することは、将来のまちづくりの前提と認識すべき事項である。

そのうえで、まちの歴史を継承しつつ、大学や神田川などの地域資源を積極的に活用し、さらに豊かで快適な活力ある街への再生が求められている。

また、神田川の景観・大学の都心回帰や高齢化社会の到来に向けて、地域の魅力、特性など「強み」を活かしてより魅力のあるまちづくりを進めることが求められている。

まちづくりの前提として不可欠な認識（基本として備えておくべき機能）

地球環境への配慮

生活様式の変化によるエネルギー消費量等の増大は、地球温暖化などの将来世代にわたる地区環境問題を引き起こしている。

このような状況の中で、本地域も環境負荷の小さい循環型の都市づくりが求められている。

防災への備え（まち安全と危機管理）

東京直下型地震が予想される中、本地域内には数多くの事業所、大学や病院等があり、大規模な災害が発生した場合には、交通機関の停止により、これら学生・就業者や来街者などの多くが帰宅困難者になると予想される。

このような状況の中で、区民・事業者・行政が連帯して援助するための地域ネットワークづくりなどが求められている。

ユニバーサルデザインの推進

急速な高齢者社会を迎え、高齢者、身体障害者等の自立した日常生活及び社会生活の確保の重要性が増大している。

このような状況の中、公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性の向上や、誰もが利用しやすい建築が求められている。

より活力あるまちへの再生の必要性

都市再生緊急整備地域の指定（全国的な都市再生の取り組み）

わが国の活力の源泉である都市について、急速な情報化、国際化、小子高齢化等の社会経済情勢の変化に対応して、その魅力と国際競争力を高めることが求められている。

千代田区では、秋葉原・神田地域が都市再生緊急整備地域に指定されており、本地域の明大通り以東の区域が含まれている。

観光振興の積極化（国をあげた観光立国への取り組み）

国の観光政策審議会「21世紀初頭における観光振興方策」の答申において、今後観光振興を国づくりの柱に据えていくことが提言された。また東京都では、「東京構想2000」において、「千客万来の世界都市」としての東京を構想し、都民がいきいきと暮らす生活の場であるとともに、活発な経済・文化活動が営まれる活力と魅力にあふれた都市として、世界中の人びとを魅了し、惹きつける様々な政策を展開している。

さらに千代田区でも、観光ビジョン（策定中）を通じて、シティーイメージを向上し、誰もが訪れたい、区民が誇れるまち千代田の実現を目指して、産業振興、まちづくり、文化芸術など多様な観点から観光まちづくりを展開していこうとしている。

このような状況の中、地域の創意工夫により、本地域の資源を活かした個性的な観光まちづくりが求められている。

地域の「強み」が発揮できる社会の動向

景観意識の高まり（美しい国づくりのなごり）

全国各地で美しい景観・豊かな緑の形成を促進するため、平成16年に景観緑三法が公布された。

このような状況の中で、神田川・ニコライ堂などの景観や風格ある街並みや歴史資源などによる美しい景観による都市再生、観光立国の実現、ヒートアイランド現象の緩和や自然との共生が求められている。

大学活動の活発化（大学の都心回帰、社会人・団塊の世代等「学ぶ層」の拡大、地域貢献）

工場等制限法の廃止や小子高齢化の到来による学生の減少による大学の都心回帰が進んでいる。

このような状況の中で、本地域内には古くから明治大学、日本大学が立地し、近年、社会人を対象とした生涯教育から大学院の設置などを進めているが、さらに地域と連携した大学の持つ知的資源の活用が求められている。

高齢社会に向けた医療、福祉、健康づくり（医療の集積を活かした多様なまちづくり）

区民と共に健康づくりを進めるにあたり、急速な小子高齢化や生活習慣病の増加が問題となっている。

そのような状況の中で、誰もが健康で質の高い生活を営むことが出来るように、医療、福祉、健康づくり活動が求められている。

地域を取り巻く主な社会状況

まちづくりの前提

【地球環境への配慮】

建設廃材の再資源化を進める「建設リサイクル法」施行(H14.5)
都が大規模事業者に環境負荷低減等の調査・届出を義務づける「環境確保条例」制定(H13.10)
2012年までに1990年比6%の温室効果ガス排出量削減を義務づける「京都議定書」が発効(H17.2)。国が「目標達成計画」を改定(H17.3)
都市再生本部が「都市再生プロジェクト」として地球環境対策をはじめて選定
国・都が、環境施策を重点的に実施する「ヒートアイランド対策推進エリア」に当地区も指定(H17.4)

【ユニバーサルデザインの推進】

不特定多数が集まる大規模施設のバリアフリー化を進める「ハートビル法」制定(H6制定、H15.4改正)
都が「福祉のまちづくり条例」制定(H7.3)
鉄道駅等のバリアフリー化を平成22年12月までに義務づける「交通バリアフリー法」制定(H12.5)
「千代田区交通バリアフリー基本構想」を策定し、当地域は先行して重点整備(H15.3)
都がユニバーサルデザインを基本する「福祉のまちづくりの新たな展開」発表(H15.8)
国が、生活環境や連続した移動環境をハード・ソフトの両面から継続して整備・改善していく理念に基づき国土交通行政を推進する「ユニバーサルデザイン政策大綱」策定(H17.7)

より活力あるまちへの再生

【都市再生緊急整備地域の指定】

都市の再生を重点的に進めるため、10年間の時限立法で「都市再生特別措置法」制定(H14.6)
民間事業者も一定の都市計画提案ができる「都市再生緊急整備地域」に、秋葉原・神田地域を指定(H14.7)

【観光振興の積極化】

都が「東京都観光産業振興プラン」を策定(H13.11)
・外国人旅行者を5年間で280万人から600万人に倍増
国が「グローバル観光戦略」を策定(H14.12)
・15年を「訪日ツーリズム元年」とし、19年までを拡大戦略期間と位置付け
国の観光立国懇談会が基本的あり方をまとめ(H15.4)。「観光立国行動計画」策定(H15.7)
・観光立国を目指し、外国人旅行者を22年までに1000万人に倍増
区でも今年度中に観光ビジョンを策定予定

【防災への備え】

東京直下型、東海沖地震などが予想されるなか、中越地震(H16.10)、福岡西方沖地震(H17.3)が発生
東京直下型地震の被害想定(中央防災会議)
死者:1万3千人、避難民:700万人、被害額:100兆円、
*区内の帰宅困難者は約60万人と推定
帰宅困難者受け入れ、学生ボランティア(8万人)の協力体制に関する大学との協定(H17.3現在で明大、電大、専大、法大と締結済、今後拡大予定)

地域の「強み」を活かす

【景観意識の高まり】

区の都市景観創出に向け「都市景観形成方針」(H5.3)、「景観形成マスタープラン」(H10.1)策定
都の景観形成の指針となる「東京都景観マスタープラン」を策定(H6.3)
建築物等に景観配慮を義務付けた「千代田区景観まちづくり条例」制定(H.10.3)
国の景観政策をはじめてまとめた「美しい国づくり政策大綱」を発表(H15.7)
「景観法」を制定し、地域特性に応じ建物形態等を規制できる「景観地区制度」を創設(H16.6)

【大学活動の活発化】

賃借スペースでのサテライト・キャンパスを可能にする設置基準の緩和(H10)
都心部での大学の増築、増築を規制していた工場等制限法の廃止(H14.7)
法科大学院などの専門職大学院制度の創設(H15.4)
構造改革特区を活用した株式会社による大学設立(H16.4)
地域と連携したまちづくり活動の活発化
(千代田区11大学連携(H15.1)、早大・墨田区包括協定(H14.12)等)

【高齢社会に向けた医療、福祉、健康づくり】

医療の分業化(地域医療と高度医療、急性期と慢性期)と機能連携
健康づくりや疾病予防を推進するため「健康増進法」制定(H14.7)
区民の健康づくり活動を進める「健康千代田21」策定(H15.3)
個々に進められていた福祉施策を一体的に推進する「区保健福祉総合計画」策定(H15.3)
在宅重視、介護予防重視に転換した介護保険法改正(H17)

2 - 3 . 都市計画マスタープラン等における将来像

(1) 都市計画マスタープラン【平成10年3月策定】

神田駿河台地域は、神保町地域・万世橋地域の両方にまたがってまちづくりの方向が示された。

< 神保町地域 >

将来像『文化を創造・発信し、多くの人々を引きつける、
にぎわいとふれあいにあふれたまち』

神田駿河台一（一部）・二丁目

駿河台の緑が多く文化的なたたずまいを活かしながら、住宅と教育・医療施設が調和した、落ち着いたまちをつくりまします。

猿楽町一・二丁目

錦華・猿楽通りの生活感の感じられる落ち着いた街並みを活かしながら、商業・業務・教育施設等が調和したまちをつくりまします。

< 万世橋地域 >

将来像『下町風情と先端性が調和する活気に満ちたまち』

神田駿河台一（一部）・三・四丁目

御茶ノ水駅周辺の賑わい、ニコライ堂などの歴史的建築物を活かし、緑やオープンスペースを維持・保全し、文化的なたたずまいを大切にしながら、教育・医療・商業・業務施設と住宅が調和したまちをつくりまします。

(2) まちづくりランドデザイン【平成15年5月策定】

千代田区都市計画マスタープラン策定後、その具体的なまちづくりの展開を示した千代田区まちづくりランドデザインにおいては、次のように位置づけられている。

緑や大学施設の集積を活かして、文化的な街並みをつくる

文化・情報・学びの拠点として、キャンパスの開放性を高める

(参考) 神田駿河台地域整備基本計画策定報告書【平成7年3月】

この計画では、以下のような認識で神田駿河台地域を捉え、整備計画が検討されている。

【地域の特性】

< 歴史的背景によるイメージ >

江戸中期の湯島聖堂の移転立地に端を発し、学問・文化の要衝として発展した。
(文化のまちとして300年の歴史)
幕末～明治期には、文壇の著名人が数多く居を構えていた。
明治時代には、立地特性から大学などの立地が進み新しい街を形成した。
(大学・学生のみちとして100年の歴史)
明治維新、戦災、高度成長期などのドラマティックな土地利用の転換期を経ているが、大学は今もあり続ける。

< イメージ(記憶)とのギャップ >

高度成長期以降、着実に業務地化が進行し、都心部地価高騰期には、交通利便性も手伝い、中央大学が移転し大規模オフィスビルが立地した。
その結果として、大学や古くからの専門学校、歴史的建造物は数多く存在するものの、視覚的にはかなりの部分が埋没し、「大学の街、文化的な街」というイメージをつかみづらくなっている

【まちづくりの理念】

「思索をする空間を特徴とするまち“お茶の水”」
開かれたキャンパスタウン
歴史ある個性(イメージ)を街全体に今の感覚で体現する

< 展開の方向 >

大学のキャンパスが街になる
- Open Campus -

- ・ゆとりあるキャンパス空間や施設の一部を地域に開放する。
- ・研究者や学生の活動が感じられるしくみや演出を行う。

充実した都心生活のある街
- Urban Life -

- ・都心の魅力：多様でアカデミックな施設に囲まれた利便性の高い都心の生活
- ・都心部人口の回復：バランスの取れた居住者と就労者のコミュニティ創出

内在する「力」を引き出し、地域の魅力を高めるまちづくり

～たくさんの人が訪れ交わる。そして多彩な才能が育ち、まちの力になる～

近年の社会動向を見ると、大学の都心回帰や社会人大学院などの新たな立地などを背景として、20歳前後の若者だけでなく、社会人や高齢者など幅広い層で「生涯にわたる学び」の需要が増加してきている。また、大学や住民、企業、行政の交流と連携の中で、新たな技術やサービスが生まれるなど、地域において大学等の教育機関に期待される役割は、従来にも増して大きくなっている。

こうした状況のなかで、大学・専門学校等の集積を強みとする神田駿河台では、「学びの環境」を提供するだけでなく、様々な情報や人、技術の交流を活発に行うことによって、地域に内在する「力」を引き出し、「**新しい文化や価値**」を創造していくことが可能である。

そのため本地域では、これまでの「大学と学生のまち」としてのイメージを基調としつつも、大学・専門学校等の教育・研究・文化発信の機能を連携させ、多彩な才能や力、文化を育てる「まちの価値」をより確かなものとする事、さらには、そうした価値に惹かれて**たくさんの方が訪れ、回遊し、楽しく過ごせるまち**に育てることが求められる。

そして、たくさんの来街者が、地域の商業者や住民、就業者などと連携・協調し、地域のまちづくりを進める力となれば、新しい発想で、さらなる文化や価値、**地域の魅力を高める原動力**となることも期待される。

まちづくりの視点

<幅広い年齢層をターゲットに、多彩な才能や力、文化を育てる>
「まちの価値」

神田川の景観（眺望の広がり）、**文教のまちとしての風格**ある街並み、歴史・文化などの地域資源を十分に活かした魅力ある都市空間づくりを進める
20歳前後の若者だけでなく、社会人や高齢者など幅広い層をターゲットにした「生涯にわたる学びの環境」を提供する
教育・医療機関などで個々に蓄積された様々な情報・知識・技術・人材・施設を相互に活用し、新しい情報・技術・サービスを生み出すことのできる関係を築く
魅力ある都市空間のなかで、活発な交流と創造性豊かな活動を育てることによって、「お茶の水ならではの文化」「地域のさらなる魅力（訪れる魅力・居住する魅力）」を確立する

<たくさんの人が楽しく歩き、交わり、暮らす>
「まちの回遊性と居住性」

まちを訪れる**たくさんの方が安全・快適に移動できる回遊のルート**を確立する
多彩な才能もつ**人が出会い、交流し、刺激を与えあう**ことができるような機能や空間を創出する
教育施設や医療施設の集積を活かして、神田駿河台ならではの魅力ある都心居住を進める

<地域の連携によるまちづくりを進める力が育つ>
「まちのしくみ」

町会・商店会、教育・医療機関、大規模事業者、交通事業者など、神田駿河台地域の各主体がもつ知恵と力を出し合い、中核的な役割を果たしてまちづくりを進める仕組みと意識を育てる（自律的でゆるやかな連携）
医療機関の集積を活かした居住の推進などにより、地域の支え手の一翼となる住民の増加を図るとともに、まちと来街者・学生・就業者との絆を強め、まちづくりに活躍する多様な人材を育てる
様々な人材の活動がまちの魅力を高め、その魅力に惹かれて様々な人材が集い、力を発揮してまちの魅力を一層高めていくような、持続的なまちづくりを展開する
個別の開発において地域への貢献が意識され、公民が連携して地域の主要な課題に対応していくしくみをつくる（公民協調型の都市施設整備）

神田駿河台地域の将来像

新しいまちづくりの視点：内在する「力」を引き出し、地域の魅力を高めるまちづくり

風格を守り、思索と出会いが文化を創造するまち“お茶の水”

～人々が楽しく歩き、交わり、暮らすキャンパスタウン～

【まちの機能と骨格のイメージ】

多様な学びの場、健康づくりサービスの提供
 学び・健康・まちづくりの拠点の形成
 (アーバン・キャンパスコア)
 教育・医療施設の集積を活かした居住の推進
 商業・サービス機能の充実、生活利便性の向上、機能更新にあわせたまちづくりへの貢献
 地域へのアクセス・回遊の起点としての機能の育成(ゲートコア)

【主な課題への対応イメージ】

御茶ノ水駅の改良と駅周辺の一体的な整備の推進
 ゆとりと賑わい、地域交流の場として、学園文化がにじむオープンスペースの創出
 ゆとりある歩行空間・良好な街並みを創出する路上駐車対策
 安全で快適に移動できる地域のバリアフリー化
 機能更新等にあわせた地域の環境改善
 防災対策と災害時の危機管理体制の確立
 文教のまちらしい風格とうるおいある街並みの形成
 地域を支える多様な居住の推進

地域が一体となったまちづくりの展開

風格を守り、文化を創造し続ける

地域の多様な担い手が連携・協調する仕組み

住民

学生
 就業者

町会・商店会
 教育・医療機関
 大規模事業者
 交通事業者

事業者

まちづくりに対する意識の醸成
 まちづくりへの主体的な参画
 居住者間での良好なコミュニティの形成

「まち」の支え手としての意識の醸成
 まちづくりへの主体的な参画
 地域居住者との良好なコミュニティ形成

まちづくりにおける中核的役割
 地域のまちづくり活動を連携・協調・先導
 地域の抱える課題への率先的対応

「まち」の支え手としての意識の醸成
 まちづくりへの主体的な参画
 地域環境に配慮した機能更新

2 - 5 . 地域の将来像

本地域のまちづくりは、「大学と学生のまち」のイメージを守るだけでなく、都心部に大学・専門学校、医療機関等が集積する「強み」を最大限活かして、たくさんの人を惹きつける様々な文化を創造し、発信しつづけて、様々な年齢、能力を持ったひとが暮らし、賑わうまちをめざす。

風格を守り、思索と出会いが文化を創造するまち“お茶の水”

～人々が楽しく歩き、交わり、暮らすキャンパスタウン～

イメージ・・・多様な人々が出会い、学び、人と文化を育てる、風格あるキャンパスタウン

イメージ・・・多様な人々が行き交い、思索しながら楽しく歩けるまち

イメージ・・・健康で、学びと文化を楽しめる都心居住が進むまち

イメージ・・・地域の連携・協働が進む、安全性と快適性が高いまち

まちの風格

神田駿河台(お茶の水)では、大規模に開発された他の拠点エリアとは、ひと味違う個性ある街並みをつくりだす。そのために、神田川の眺望景観を活かしながら、とちの木やかえでの並木、落ち着いたある建物のファサード、ニコライ堂や太田姫神社などの歴史的資源、公開空地をつないで、点から線、線から面へ広がる、文教のまちとしての風格を守る。

思索と出会い

神田駿河台(お茶の水)に集まる多才な人々(学術・芸術など)が風格あるまちのなかで思索し、出会い、刺激を与えあって、新しい価値を創造できるような機能や空間を創出する。

未来にむかって、創造し、発信する文化

大学や専門学校、医療機関において、個々に蓄積された学術・文化・知識・技術を活かし、学びや健康づくりの機能の相互連携が可能な環境を整える。

～人々が楽しく歩き、交わり、暮らすキャンパスタウン～

学術・芸術を極めた専門家、学生(若者・社会人)、地域住民、商店街、就業者、来街者など多様な人々が、思い思いに学び、思索し、地域内ではいつも学術・文化・芸術活動などが展開され、風格ある文教のまち「神田駿河台」は、文化を創造・発信していく雰囲気満たされていくキャンパスタウンをめざす。

イメージ 多様な人々が出会い、学び、人と文化を育てる、風格あるキャンパスタウン

生涯にわたって学び、自己を磨く意欲に応える
多様な人々が、学び、出会い、交流する中で、情報・技術の蓄積を活かし、
新しい文化・価値を創造・発信し続ける
文化の創造・発信というまちの価値が確立し、風格ある街並に体现される

求められる
まちの機能

幅広い世代の多様なニーズに応える「学びの場」の創出
教育機関と地域の連携による文化及び交流活動の展開
教育機関等の連携による知識・情報・技術の蓄積と活用
文教のまちの風格とうるおいのある街並みの形成

イメージ 健康で、学びと文化を楽しめる都心居住が進むまち

医療機関の集積を活かし、高水準のサービス・情報を受け、健康的に暮らす
教育機関の開放等が進み、地域の文化活動に気軽に参加し、自己実現を通して、
文化的に暮らす

求められる
まちの機能

地域として健康を支えるネットワーク
教育・医療施設の集積を活かした居住
定住性の向上に資する多様な住宅・生活利便施設・文化施設

イメージ 多様な人々が行き交い、思索しながら楽しく歩けるまち

風格ある街並みや自然の眺望を感じながら、交流活動の賑わいを楽しむ、
歩いて楽しいまち
周辺の個性あるまちとつながる回遊ネットワーク

求められる
まちの機能

まち歩きや地域サービス・イベント情報等の集約とわかりやすい発信
学生や企業、地域による様々な活動やイベントを楽しめるオープンスペース
風格ある街並みと思索を楽しみ、だれもが安全・快適に移動できる回遊ルート
駅及び駅周辺の安全性・快適性と神田川の眺望を活かした親しみある街並み

イメージ 地域の連携・協働が進む、安全性と快適性が高いまち

教育機関・医療機関を含めた地域の連携・協働により、防災・防犯など
安全・快適なまちづくりが進む。

求められる
まちの機能

大学・企業等と地域との連携を含めた地域活動の推進
緊急・災害時の拠点機能と危機管理体制の確立
地域の連携による調和と潤いのある街並み形成

本構想では、『地域の将来像』やまちづくりの「イメージ」にそって、「ゾーン別の将来像」や「地域の抱える課題とその対応」にそって、まちづくりを展開する。

